

平成 24 年度宮古市中央公民館事業
3.11 大津波体験語り継ぎエピソード集
【第 2 期】

～ あなたにつなが
メッセージ ～

当時、私たちは何を思い、どんな行動をしたのでしょうか
ありのままの体験談が、今後の減災につながります

平成 25 年 3 月
宮古市中央公民館

～ はじめに ～

3月、今年もまたあの季節が巡ってきました。改めて震災により犠牲になられた方々に深い哀悼の意を捧げますとともに被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

平成24年5月発行のエピソード集では、震災後約半年～1年の間に聞き取った皆さんの体験を掲載しました。やはり自ら進んで話す方は少なく、聞き取りが難しいこともありましたが、その時期に聞き取る体験が訴える力を感じました。一方で、時が経ち冷静に振り返る体験から見えてくる教訓もあります。そこで、震災から2年が経つ中で聞き取りした体験の物語を第2期エピソード集として発行することになりました。

第1期では、主に避難行動についてお話しいただきましたが、第2期では、避難後にどのように助け合い生き延びたのか、教訓や課題、要望や期待などの様々な内容も物語として掲載されています。

各地域で起こった現象や立場の異なる人々の行動、感情をありのままに伝える物語には、共感するお話もあると思います。また、同じ地域で起こっていた全く知らない話もあることでしょう。

いつ何処でこのような災害に遭うかは誰にもわかりません。自然の猛威に人間は非力かもしれませんが、この物語から得る教訓や知恵が一人ひとりの防災力を強化し、自らが全体の復興を支える力として新たな行動を起こすきっかけとなれば幸いです。また、今後子ども達がこのような悲劇に遭わないように後世へ伝えることを願っております。

聞き取りしたお話は、語り口を残す物語として編集し、被災の有無に拘わらず当時の状況証言として掲載しております。また、物語の中には、必ずしも正しい行動とは言えない部分もありますが、当時の様々な場面を皆さんで考える際の資料となりますことを願っております。

エピソード集作成にあたり、生活再建、復興支援などお忙しい中、ご協力くださいました皆様に心から感謝を申し上げます。

【震災の状況】

■地震の状況(気象庁発表)

- 1.発生時刻 :平成23年3月11日、14時46分ごろ
- 2.震源地 :三陸沖(北緯38.1度、東経142.9度、
牡鹿半島の東南東約130km付近)
- 3.震源の深さ :約24km
- 4.震源の規模 :マグニチュード9.0
- 5.震度 :震度5強/茂市
震度5弱/五月町、鍬ヶ崎、長沢、田老、川井、門馬田代
- 6.警報等の発表 :3月11日 14:49 岩手県に大津波警報
3月12日 20:20 津波警報に切替
3月13日 7:30 津波注意報に切替
3月13日 17:58 津波注意報解除

■地盤沈下の状況(国土地理院)

〈本町〉44cm 〈磯鶏藤原埠頭〉50cm 〈津軽石第9地割〉33cm

■津波の概況(気象庁発表)

1. 第1波 到達時間 :3月11日 14:48 高さ0.2m
2. 最大波 到達時間 :3月11日 15:26 高さ8.5m以上
*後日現地回収した津波観測点記録の分析結果痕跡等から推定した
津波の高さ7.3m(4月5日、盛岡地方気象台発表)
3. 津波遡上高 (陸地を駆け上がり到達した津波の高さ)
・田老小掘内地区 37.9m (東大地震研究所発表)
・重茂姉吉地区 40.5m (東北地方太平洋沖地震波合同調査グループ発表)
4. 津波浸水域 :約10平方km (建物用地・幹線交通用地のうち21%が浸水
(国土地理院調べ))

■避難の状況(宮古市危機管理課)

1. 避難指示発令 :平成23年3月11日 14:49
2. 避難指示解除 :平成23年3月13日 17:58
3. 避難指示対象 :5,277世帯 (12,842人)
4. 避難者数 :【最大時】85箇所、8,889人 *H.23.8.10全指定避難所閉鎖

■主なライフライン復旧状況(宮古市危機管理課)

1. 電力 :平成23年4月30日 市内完全復旧
2. 上水道 :平成23年4月15日 復旧率100%
3. 通信 :平成23年4月15日 固定、携帯電話復旧

■応急仮設住宅の状況(宮古市危機管理課 H24.7.6現在)

整備戸数 :62箇所、2,010戸
入戸状況 :60箇所、1,713戸、3,883人

【被害の状況】

■人的被害(宮古市危機管理課 H24.11.6 現在)

死者：517人（うち死亡届出者 407人、うち死亡認定者 110人）
行方不明者：94人

※死亡認定者と行方不明者は重複している。死亡認定者110人と行方不明者94人の差16人は、死亡認定届出後に遺体またはDNA鑑定で行方不明者本人と特定された方の人数である。

■住家等被害(宮古市危機管理課 H24.11.6 現在)

全壊：5,968棟 半壊：1,174棟
大規模半壊：1,335棟 一部損壊：611棟 合計：9,088棟

■災害廃棄物処理状況(宮古市東日本大震災復興計画資料編 H24.3.30 現在)

がれき推計量：715,000トン
処理・処分量：30,000トン
進捗率：4.2%

■雇用への影響等(宮古市東日本大震災復興計画資料編 H24.3.30 現在)

解雇：53事業所（728人）
失業保険給付：19事業所（220人）激甚災害法指定
休業：4事業所（39人）災害救助法適用
*震災直後のデータ参照 *従業員の変動が5人以上あった事業所のみ

■施設等の被害(宮古市危機管理課 H24.11.6 現在)

全被害推計額：2456億6088万4千円

庁舎等、通信、社会福祉、社会教育、文化、体育、水道、医療衛生、
消防防災、観光、商工労働関係、水産関係、漁港、農業、家畜等、
農地農業等、農業用地、林業関係、公共土木、公営住宅、学校、文化財、
住宅等



～ 過去の津波記録 ～

昔の大津波

^{じょうがん}貞観地震 11年(869)5月26日(陽暦7月13日)

^{けいちよう}慶長地震 16年(1611)10月28日(陽暦12月2日)

三陸大津波(明治) M8.2 最大震度 2～3 死者 21,959名
明治 29年(1896)6月15日 午後8時ごろに大津波

弱い揺れだが、震源が近海で夜間の発生だったので県内でも多くの方が亡くなった。

三陸大津波(昭和) M8.1 最大震度 5 死者不明者 3,064名
昭和 8年(1933)3月3日 午前3時ごろに大津波

強い揺れだが、震源が沖合で津波襲来まで時間がかかり、再び寝静まった住民が波に飲まれた。

チリ地震津波 M9.5* 震度観測なし 死者不明者 142名
昭和 35年(1960)5月24日 午前3時30分ごろに津波

日本の裏側の南米チリで発生した津波が22時間30分かけて来襲。地震が無くても津波が来るという教訓になった。



*モーメントマグニチュードによる

【参考資料】

気象庁発表 (過去の地震・津波被害)
広報みやこ (H17.2.1)

*** エピソード一覧 ***

NO	タイトル	地震遭遇 地区	ページ
1	もう少しだ！頑張れ！	日立浜	1
2	津波対策で1階にトンネルを通していたが	日立浜	3
3	すぐ取りやすい所にリュック	鍬ヶ崎	5
4	病人やペットがいるので遠慮した	長町	6
5	初めて2人で逃げた	日立浜	9
6	地域の人を覚えているのは分団員	新町	11
7	海端と町場では感覚が違う	築地	13
8	これまで団員に退避指示が出た事は無かった	築地	15
9	どんどん引いていますよ！と騒げば	築地	17
10	逃げろー！逃げろー！	築地	19
11	逃げ遅れた時の判断	大通	22
12	走る私達を見て近所も逃げた	藤原	24
13	訓練には、10名ぐらい	末広町	28
14	避難場所への道のり表示	磯鷄	30
15	非常持ち出し物品には、筆記具も	磯鷄	31
16	ここに津波が来るくらいなら宮古は無くなる	神林	33
17	印象は波がピチャッと来るぐらい	高浜	34
18	裏山を歩いて道を覚えていた	高浜	36
19	長い揺れで津波が来る予感	金浜	37
20	物に名前を書いていた	金浜	38
21	津波のことは全く頭に無い	金浜	39
22	避難しないと決めた	金浜	40
23	津波を見た事が無いから見よう	金浜	42
24	孫らに助けられた	金浜	43
25	津波が引いた後に黄土色のもや	金浜	44
26	入口が1ヶ所だった	金浜	46
27	中国で日本の東北に3mの大津波	金浜	48
28	泥の中から見つけた自分の物	金浜	50
29	絶対堤防を越えないと思った	金浜	53
30	冷蔵庫は浮かんで水が入らなかった	田老	54

NO	タイトル	地震遭遇地区	ページ
31	常日頃の避難意識と判断力	山田町	56
32	地震が来たら津波と思え	津軽石	59
33	内陸出身なので津波は頭になかった	重茂	61
34	避難所は情報が集まる所	重茂	62
35	民生委員の活躍は津波の後	重茂	65
36	地区全員が1か所、昔の家の並びに入居	重茂	68
37	盛岡に買い出しに	重茂	71
38	3mの津波で何故？	重茂	74
39	これは只事じゃないから逃げろ！	重茂	75
40	堤防のかさ上げをしていたから安心していた	重茂	76
41	遠くではなく、少しでも高く逃げる	重茂	77
42	半島にぶつかった波が急に入ってきた	重茂	81
43	70年間騙されたという思い	重茂	86
44	震災時の人工透析	宮町	90
45	今日は8000食、今日は9000食	新里	92
46	帰ってもいいよと言えなかった	田老	94
47	津波が来る時は別、めいめいこで		98
48	救護経験者がいて助かった	田老	100
49	大砲のような音が2回	田老	105
50	手記「忘れられない日々」	千徳	112
51	手記「東日本大震災“巨大津波”体験記」	磯鶏	114
52	手記「〈3.11〉あの日その時」	向町	118

*平成24年11月から平成25年3月までに、聞き取りしたお話を物語として編集しました。また、手記3篇も掲載しております。

H23.3.11 夕刻
中央公民館前から撮影

